

2017年度 センター試験 本試験 世界史 B

第1問 世界史上のマイノリティ（少数派）

出題範囲	古代～現代の文化・社会史
難易度	★★☆☆☆
所要時間	15分
傾向と対策	2017年度の第1問は4択式による解答で、正誤問題を中心として、年表を利用して歴史的出来事の時期を問う問題や、グラフ読み取り問題が出題された。基本的な知識をおさえていれば確実に正解できる問題がほとんどであった。問2は地図上の位置なども把握しておく必要があり、少し難しかったかもしれない。また、問4や問9はある程度の年号の知識が必要な問題となった。

A

問1 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

世界史上のキリスト教の異端に関する問題。出題分野は、①、③ローマ世界、②、④西ヨーロッパ中世世界の変容。出題分野からもわかるように、キリスト教の異端は至る時代で登場している。この問題で4つの宗派について問われているので、いい機会だと思って、③のように異端とされたキリスト教の宗派と、正統であるアタナシウス派との違いを確認しておくこと覚えやすいだろう。②のように、宗派とそれが異端だとされた公会議の組み合わせは要確認。公会議の名前である地名も、地図で確認しておこう。

① 誤 **ネストリウス派**は、漢代ではなく**唐代**の中国に伝わった。**唐**では**景教**と呼ばれた。ネストリウス派は、イエスの人性（イエス＝人とする）を明確に示し、人性と神性を区別するべきという立場をとった。**エフェソス公会議（431年）**で、**異端**とされ、追放された。その後、**ササン朝**を中心に東方へと伝達し、中国（当時は**唐**）で広まった。長安で景教の寺院が建立し、信者も多かったとされている。明末に発見された大秦景教流行中国碑には、景教教義の概要や伝来の由来が記されている。

※**アタナシウス派**：**ニケーア公会議**で**正統教義**とされ、カトリックに通ずる。神は「父」と「子（イエス）」と「聖霊」の3つの位格（ペルソナ）をもつとする**三位一体説**を信じる。「神＝父＝イエス＝聖霊」の等式が成り立つと信じている。

② 誤 **フス派**が異端とされたのは、**コンスタンツ公会議**である。**トリエント公会議**は、1545年に**対抗宗教改革**の一環として開かれたものである。**コンスタンツ公（宗教）会議（1414～18年）**は、ドイツ皇帝（神聖ローマ皇帝・ハンガリー王を兼任。1436年からはボヘミア王も兼ねる）**ジギスムント**の提唱で開催され、**教会大分裂を解消**することが目的だった。この公会議にて異端とされ、火刑に処せられた**フス**は、ウィクリフに共鳴し、当時の教会の悲惨な状態は聖職者の不道德さに起因するとし、**カトリック教会**の世俗化を厳しく**批判**した。

トリेंट公会議（1545～63年）は、宗教改革の混乱を収束させ、カトリック教会の体制立て直しを目的として開催された。もともとはプロテスタント側の参加も想定されたが、プロテスタント側が出席を拒否したために、カトリック側だけの会議にとどまり、**教皇の至上権**を確認し、**カトリック教会の権威の復活**も目指した。

※**ウィクリフ**：イギリス**宗教改革の先駆者**とされている。オクスフォード大学で神学教授を務め、教会とは、教皇を頂点とする組織のことではなく、救済を約束された人々の集合そのものであると主張し、聖書に立ち返るように説いた。初めて**聖書（ラテン語）を英語に翻訳**した人物でもある。

- ③ 誤 **アリウス派**は、**キリストが人間である**と主張し、**異端**とされた。三位一体説を唱えたのは**アタナシウス派**であり、これが正統教義とされた。**アリウス派**は、神の本性は分割不可能なものであるため、「神の性質をもつもの」ではなく、「神聖」なのだとする。つまり、イエスは神とはまた別の人だった（イエスの人性）としている。**ニケーア公会議（325年）**にて**異端**とされ、ローマ領から追放され、北方のゲルマン人などに布教された。

アタナシウス派や三位一体説の解説は①※を参照。

- ④ 正 フランスの**ルイ9世**は、**カタリ派（アルビジョワ派）を征服**した。これを**アルビジョワ十字軍**という。**カタリ派**は、マニ教の影響を受け、二元論的な世界観をもち、教会権力や富を否定し、清貧を主張した。**アルビジョワ十字軍**は、**インノケンティウス3世**の要請で始まり、北フランスの諸侯が多く参加した。**アルビジョワ派**は抵抗を続けたが、1229年に、ルイ9世が**カタリ派を征服**したことで、**アルビジョワ十字軍の勝利**で終結した。このことにより、フランス国内の異端は殲滅され、南フランスまで王権が拡大され、フランスの統一が進んだ。その裏で、トゥルバドゥール（吟遊詩人）などの南フランス独自の文化は失われた。

問2 2 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

アフリカの歴史に関する問題。出題分野は、①イスラーム文明の発展、②古代オリエント世界、③イスラーム世界の発展、④世界分割と列強対立。アフリカの歴史は問われることが少ないため、苦戦したかもしれない。この問題を機に、復習しておこう。特に、①のように、アフリカで築かれた黒人国家がどの地域で栄えたか、などについては地図と照らし合わせて覚えておきたい。近現代になると、特に英仏の植民地としてアフリカが分割されていくが、どの地域や国がどの国の植民地であったのかは、くまなく確認しておこう。

- ① 誤 **モノモタパ王国**は、**ザンベジ川**上流で栄えた。モノモタパ王国は、11～15世紀頃に、**東アフリカ内陸部**（現ジンバブエ～現モザンビーク）を領土とした黒人王国。この地方は金と象牙の産地であるため、それらを海港都市に運び、イスラーム商人と交易していた。1868年に**ジンバブエ遺跡**が発見されたことで、王国の繁栄が明らかになった。
- ② 誤 **アマルナ美術**が栄えたのは、**アメンホテプ4世**の時代。**クフ王**は**古王国**時代の王（第4王朝の王）で、**ギザのピラミッド**で有名。アメンホテプ4世は、新王国第18王朝の王で、**信仰改革**と**テル＝エル＝アマル**

ナへの遷都を行った。当時広く信仰されたアモン＝ラー（テーベの守護神アモン神＋太陽神ラー）を否定し、唯一の絶対神アトン神を創出し、人びとに信仰を強制した。この信仰改革に伴い、都をテル＝エル＝アマルナに移した。そこで、写実性の高い、斬新なアマルナ美術が栄えた。

- ③ 正 ベルベル人はマグリブ地方の先住民である。侵入したアラブ人の影響を受けてイスラーム教に改宗したものが多かった。7世紀以来のイスラーム教の浸透により、アラブ人との同化が進行した。その過程でイスラーム化した。
- ④ 誤 マダガスカルは、フランスの植民地であった。マダガスカルは、15世紀以降にイスラーム化し、アラブ系住民が増加した。19世紀後半にはフランスが侵入し、保護領化した。

問3 3 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

地中海地域のキリスト教諸国に関する問題。出題分野は、①、③西ヨーロッパ中世世界の変容、②東ヨーロッパ世界の成立、④西ヨーロッパ世界の成立。スペイン王国の成立過程は、その後の繁栄・衰退とあわせて正確に覚えておこう。十字軍の結果については、全部の回を覚える必要はなく、主要なものだけでも覚えておきたい。その中でもラテン帝国の成立は印象的なので、第4回の結果は必ず確認しよう。

- ① 誤 アラゴン王国とカスティリヤ王国が統合されてできたのは、スペイン王国である。アラゴン王国の王子フェルナンドとカスティリヤ王国のイサベル女王は統合の10年前に結婚し、1479年に両王国を統合してスペイン王国を成立させた。ポルトガル王国は、1143年に、カスティリヤに従っていた仏系ポルトウカーレ伯が自立し、カスティリヤ王国から分離して成立した王国。
- ② 誤 ラテン帝国は第4回十字軍によって成立した。第4回十字軍はインノケンティウス3世の命で行われたが、本来の目的を捨ててコンスタンティノープルを攻略した。他の十字軍の契機や結果については、「【整理】十字軍の契機・結果」を参照してほしい。
- ③ 誤 シチリア王国を建てたのは、ノルマン人である。ノルマン人のルジジェーロは、1061年からシチリア島のイスラーム勢力に対して攻撃を開始した。1072年には占領が完了し、シチリア伯の称号を獲得した。ルジジェーロの子・ルジジェーロ2世は、1130年にシチリア王国（ノルマン＝シチリア王国）の国王に即位した。
- ④ 正 726年、ビザンツ帝国のレオン3世は、偶像崇拜を否定するイスラーム教に対抗するために聖像禁止令を出した。聖像禁止令のねらいには、教会や修道院の所有地の没収も含まれていたとされている。この考えは、イスラーム軍の侵攻で財政難に陥っていて、兵士を確保したいビザンツ皇帝が、聖像禁止令に従わないものは、土地・領民を没収するとしたところに由来している。

【整理】十字軍の契機・結果整理

a. **第1回十字軍** ○ (1096年～99年)：クレルモン宗教会議でウルバヌス2世提唱

契機：セルジューク朝のエルサレム占領＋小アジア進出

実施：仏・南伊の騎士・諸侯が参加

結果：聖地占領＋エルサレム王国建国 (1098年)

b. 第2回十字軍 × (1147年～49年)

契機：セルジューク朝の勢力回復

実施：皇帝(コンラート3世), 仏王ルイ7世参加

結果：ダマスクスを攻撃するも、失敗

c. **第3回十字軍** × (1189年～92年)

契機：サラディンの聖地奪還

実施：皇帝フリードリヒ1世, 仏王フィリップ2世, 英王リチャード1世参加

結果：失敗

d. **第4回十字軍** 脱線 (1202～04年)：インノケンティウス3世提唱

実施：ヴェネツィア商人も参加

結果：コンスタンティノープル攻撃→ラテン帝国建国

e. 第5回十字軍 △ (1228～29年)

契機：エジプトによる聖地占領

実施：皇帝フリードリヒ2世参加

結果：交渉→一時聖地回復→トルコが奪取

f. 第6回十字軍 × (1248～54年)：グレゴリウス9世提唱

目的：聖地占領

実施：仏王ルイ9世参加

結果：カイロ攻撃→ルイ9世捕虜に

g. 第7回十字軍 × (1270年)

目的：チュニス攻略

1291年 十字軍最後の拠点アッコ陥落 実施：仏王ルイ9世

結果：チュニス攻撃→王病死→失敗

1291年 十字軍最後の拠点アッコ陥落

B

問 4 4 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

全インド＝ムスリム連盟が結成された時期に関する問題。出題分野は、アジア諸国の改革と民族運動。全インド＝ムスリム連盟が結成された背景を覚えていれば、a か b の 2 択にまで落とし込めただろう。ここで注意すべきは、全インド＝ムスリム連盟が結成された目的と類似している 1905 年のベンガル分割令が、全インド＝ムスリム連盟結成前か結成後か、という点のみだ。出来事の前後関係を正確に把握することがこの問題では求められている。

全インド・ムスリム連盟は **1906 年**、イギリスの支援で結成されたインド内ムスリムの政治団体である。正解は **b** である。このイギリスの政策はベンガル分割令と同様、インドのムスリムとヒन्दゥー教徒の分断を目的とした。当初、イギリスの策略通り、連盟はヒन्दゥー教徒が主体のインド国民会議派と対立し、イギリス統治に対して協力的な姿勢を明確にした。しかし、第一次世界大戦前後には反英的となり、国民会議派と提携した。1937 年以後は、再び国民会議派と対立を深め、1940 年にはイスラーム教徒の独立国家建設を決議した。

問 5 5 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

ムスリムの君主や王朝に関する問題。出題分野は、①、④インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化、②、③イスラーム世界の発展。この問題を通して、センター試験では、国家・王朝と創始者（①）と、国家・王朝とその支配領域・地域（③、④）が肝心であることがわかるだろう。特にインドのイスラーム王朝は、王朝と創始者の組み合わせを混同しやすいので、注意して復習しておこう。国家・王朝とその支配領域・地域は、文字で覚えるよりも視覚的に把握するほうが覚えやすいので、地図で確認しておきたい。

- ① 誤 **アイバク**は、**奴隷王朝**を創始した。アイバクは、中央アジア出身のトルコ人で、奴隷として売られていた。ゴール朝のムハンマドから厚く信頼されたアイバクは、騎兵隊の指揮官から親衛隊長になり、果てにはムハンマドからインド統治が任されるようになった。1206 年にムハンマドが暗殺されてから、インドのデリーで独立し、**奴隷王朝**を創始した。
- ② 正 **サラディン**（サラーフ＝アッディーン）は第 3 回十字軍において**エルサレム**を奪回した。サラディン（サラーフ＝アッディーン）は、クルド人出身で、**アイユーブ朝**を建てた人物でもある。
- ③ 誤 アナトリアとは、現在のトルコがある**小アジア**を指す。**ムワッヒド朝**が進出したのは**イベリア半島**である。ムラービト朝滅亡後のイベリア半島では、分裂したイスラーム教小国家同士で抗争が起きていた。1160 年には、ムワッヒド朝の創始者がジブラルタルにわたり、アンダルスの征服に着手し、彼の次世代の頃に征服はほぼ完了となった。
- ④ 誤 **アチェ王国**は、**スマトラ島北端**に建てられた。アチェ王国は、**15 世紀**後期頃にスマトラ島で建てられ、

マラッカ王国と対抗した。16 世紀にはマラッカを制圧したポルトガルとも対抗し、イスラーム商人の交易ネットワークを構築し、強大な勢力となるまでにいった。また、スマトラ島の胡椒をおさえ、イギリス・オランダとの交易で利益を獲得した。

問 6 6 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

海上交易に関する正誤問題。出題分野は、a インドの古典文明、b ヨーロッパ諸国の海外進出。b のように貿易の根拠地に関する問題は頻出なので、正解しておきたい。a は、インドの古代王朝についての問題であり、出題がまれな分野である。チョーラ朝の支配領域や特徴などを確認しておこう。

- a **正** チョーラ朝は、B.C.3 世紀から 3 世紀（前期）、9 世紀から 13 世紀（後期）にかけて南インドの東海岸に存在した王朝であり、海上交易で栄えた。チョーラ朝は、ドラヴィダ語族系のタミル人の国で、前期チョーラ朝は、クシャーナ朝やサータヴァーハナ朝と同時代に存在し、インド南部ではパーンティヤ朝やチェーラ朝もあった。インド洋交易圏の中で、胡椒などの特産品をローマに輸出し、利益を獲得していた。
- b **誤** ゴアをアジア貿易の拠点としたのはポルトガルである。ポルトガルは、トルデシヤス条約締結後、ブラジルを領有したのちに東洋貿易へと視点を移し、1510 年にゴアを占領した。そこで、商館を各地に建設し、香辛料貿易を行い、カトリック布教にも励んだ。

C

問 7 7 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

ロシアやソ連の対外関係に関する問題。出題分野は、①東アジアの激動、②重商主義と啓蒙専制主義、③第二次世界大戦、④石油危機と世界経済の再編。この問題で問われているロシア史の時代の範囲は、近代から現代である。この問題では意識させていないが、ロシアの近現代史を扱った問題の場合、「ロシア」が「ソ連」へと改称した時期を正確に記憶しておく必要があり、「ソ連」結成以前の出来事か否かを吟味することが要求される可能性もあるため、要注意である。

- ① **誤** アイグン条約は、1858 年にロシアと清が結んだ条約である。アムール川以北をロシア領、沿海州（ウスリー川以東）をロシアと清の共同管理地と定めた。ロシアは、アイグン条約の締結を東シベリア総督ムラヴィヨフに託した。アロー戦争で窮地に立っていたため、清は当初は条約の要求を呑まざるを得なかったが、のちにこの条約を否認した。しかし、北京条約（1860 年）でこの条約の内容を確認することとなった。
- ② **誤** ロシアは、1867 年にアラスカをアメリカ合衆国に売却した。アラスカは、1741 年にベーリングが大陸間の海峡を横断して到達したため、ロシア領となっていた。しかし、アレクサンドル 2 世は、財政難からアラスカをアメリカ合衆国に安価で売却した。ちなみに、売却した直後にアラスカで金鉱が発見されたため、

ロシアにとっては売却が大きな痛手となった。

- ③ 正 ソ連は1940年、ラトヴィアを含む**バルト3国を併合**した。なお、この時点ではソ連は第二次世界大戦には参戦していない（ソ連参戦は、独ソ戦時＝1941年）。1939年8月に、ヒトラー（独）とスターリン（ソ）の間で独ソ不可侵条約が締結されたが、その条約に付帯する秘密議定書が存在した。ソ連のバルト3国の併合は、その秘密議定書にもとづくものであったが、**正式に併合が確定**したのは、翌年だった（6月にバルト3国に侵攻）。バルト3国が再び独立を回復するのは、1991年9月（18世紀以降ロシア領→ロシア革命時に独立、1920年にソヴィエト連邦から独立承認を受ける）。
- ④ 誤 ソ連は1988年に**ゴルバチョフ**政権下で**アフガニスタンから撤退**した。ソ連は1979年、**ブレジネフ**の下で**アフガニスタン**に侵攻した。1985年に始まったゴルバチョフ政権は、**新思考外交**を行い、1988年には国連の仲介でジュネーブ和平協定の合意を獲得して完全撤兵を決定した。1989年までには全部隊の撤退が完了した。侵攻の目的は、当時は明らかにされていなかったが、現在では、共産政権の維持とイスラーム民族運動の抑圧の2点が理由となっている。前者については、アフガニスタンの軍事政権が独裁化し、共産主義者を排除しようとしたことに対する危機感があった。後者については、イラン革命の影響でイスラーム民族運動が活発化しており、アフガニスタンにイスラーム政権が成立すると、他のソ連邦内のイスラーム系諸民族がソ連からの離脱を図るかもしれない、という危機感があった。

問 8 8 正解は③

難易度 ★★★★★

解説

1890年から1940年にかけてのイギリス、ドイツ、ロシア（ソ連）の**銑鉄生産量**の推移を示したグラフ読み取り問題。出題分野は、a 第一次世界大戦とロシア革命、b 世界恐慌とファシズム諸国の侵略。グラフ読み取り問題は、数年に1度出題されるまれな形式だが、解答は容易だ。しかし、この問題ではグラフ読み取りに加えて、世界史の知識（特に年号や詳細な時期）が問われている。そのため難易度があがっているといえる。aとbはともに、(a)「第一世界大戦後」、(b)「第2次五か年計画の時期」と時期を定めている。それらの時期が把握できていなければ、問題の正誤は判別できない。今一度、主要な年号は確認し、この形式の問題に対応できるようにしておこう。

- a 誤 **第一次世界大戦が終結**したのは、**1918年**である。グラフによると、ドイツの銑鉄生産量が、イギリスの生産量を**初めて上回ったのは、1905年前後**であるため、誤り。正確な年号までは把握できないが、1915年から1920年の間では、ドイツの銑鉄生産量が減少し、イギリスの生産量を下回る時期がある。
- b 正 ロシア（ソ連）で**第2次五か年計画**が行われたのは、**1933～37年**である。この時期には確かに、銑鉄生産量が**大幅に伸びている**。ロシア（ソ連）のグラフを見ると、1922年前後から生産量が増加し、1930年頃を境に急増していることがわかる。

問 9 9 正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

チェチェン紛争が勃発した時期に関する問題。出題分野は、社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展。現代史、それも 1990 年代に起こった出来事に関する問題であるため、難易度は高い。しかし、出題者側もその認識はあったようで、受験生への配慮もみられる。選択肢の年代の幅を見ると、20～40 年程度の間隔がある。これが古代や中世だったらあまり有用な間隔ではないかもしれないが、時代が刻一刻と変化している近代や現代で、これだけ時代の間隔があれば、変化も急である。例えば、年表に記されている出来事で見えていくと、第一次世界大戦中（1916 年）、第二次世界大戦中（1941 年）、ソ連崩壊直前（1986 年）と、時代背景がずいぶん異なることがわかる。この中でチェチェン紛争がいつ頃起こったかを探っていくが、そのときに有用なのは、年表にある各出来事の時代背景を考えることだろう。

チェチェン紛争は、チェチェン共和国が**ロシア連邦からの独立**を要求して勃発したものである。**ソ連崩壊後**の出来事なので、時期としては **d** である。チェチェン紛争は、第 1 次（1994～96 年）と第 2 次（1999 年～）の 2 度にわたり、激化している。1991 年のソ連解体時にチェチェン共和国が一方的に独立を宣言したが、当時のロシア大統領・エリツィンは認めなかった。1994 年に、共和国独立を目指す武装グループが闘争を開始し、それに対してロシアは軍事行動を展開しながら鎮圧にあたった。1999 年には、再度共和国の独立を主張する武装グループが蜂起し、モスクワでもテロ事件が発生した。現在は一応の治安は回復したとされているが、未だに独立要求は収束していない。

(重森理瑛, 的場光紀)

2017 年度 センター試験 本試験 世界史 B

第 2 問 世界史上の革命や政治体制の変化

出題範囲	古代～現代の政治史・経済史
難易度	★★★☆☆
所要時間	15 分
傾向と対策	2017 年度の第 2 問は 4 択式による解答で、正誤問題を中心として、地図を利用して地名や正誤を問う問題や、穴埋め問題が出題された。ロシア革命や中国の国民革命など、展開が複雑な出来事が題材となる傾向にあった。問 7 は、解説でも述べた通り、「メキシコ革命」とあまり出題されない内容が題材となっているものの、比較的やさしい問題であるため、正解しておきたい。

A

問 1 10 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

世界史上の憲法に関する問題。出題分野は、①戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立、②アメリカ独立革命、③ヴェルサイユ体制下の欧米諸国、④オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容。誤っている選択肢を選ぶことに注意する。世界史上で登場する憲法としては、いずれも比較的主要であるため、不正解だった場合は特に入念に確認しておこう。また、相互の憲法の関係についても復習して、共通点を発見していきたい。

- ① 正 日本国憲法は、**主権在民（国民主権）**をうたっている。日本国憲法は、**1946 年 11 月 3 日**に公布され、**1947 年 5 月 3 日**に施行されている。GHQ 草案にもとづいて作成され、内容には**主権在民**、**象徴天皇制**、**平和主義**、**基本的人権の尊重**が含まれており、徹底した民主化が目指されたものとなっている。
- ② 正 **アメリカ合衆国憲法**は、**三権分立**の原則を採用した。アメリカ合衆国憲法は、**1787 年**の憲法制定会議で採択された。大きく以下の 3 つの特徴を含む。
- (1) 外交・通商・国防・徴税などの権限を付与し、**中央政府**の権限を強化
 - (2) **三権分立**を定め、中央政府が過度に強力にならないようにしたこと
 - (3) **人民主権**による共和政を規定
- 三権分立は、立法権（連邦議会で行使）、行政権（大統領が行使）、司法権（裁判所が行使）で構成されている。
- ③ 正 **ヴァイマル憲法**は、**男女平等の普通選挙**を規定した。ヴァイマル憲法は、**1919 年**に制定された**ドイツ**の憲法。人民主権、20 歳以上の男女普通選挙、大統領の直接選挙などを規定し、当時、最も民主的だとうたわれた。
- ④ 誤 **ミドハト憲法**は、**トルコ**で制定された。ミドハト憲法は、**1876 年**に**オスマン帝国**の最初の憲法として制定された。起草者は、宰相**ミドハト＝パシャ**であり、内容には上下両院の議会設立を含んだが、**ロシア＝**

トルコ戦争（1878 年）の勃発を口実に**停止**された。

問 2 11 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

世界史上の議会や集会に関する問題。出題分野は、①ウィーン体制の成立、②ギリシア世界、③西ヨーロッパ中世世界の変容、④帝国主義と列強の展開。さまざまな年代・地域で実施された議会や集会が出題されている。誤っている選択肢に関しては、誤っている部分が正しくはどうなのかまで確認しておく、復習の機会になる。各選択肢で問われている内容は、基礎知識であるため、不正解だった場合は入念に復習しておこう。

- ① 誤 **ウィーン・ベルリン三月革命（1848 年）**で、**メッテルニヒ**が失脚した。メッテルニヒは、**ウィーン会議**を議長として主催し、その後オーストリアの宰相としてウィーン体制を主導した。しかし、**1848 年革命**の勃発を機に失脚し、イギリスに亡命した。
- ② 正 **アテネ**では、**成年男性市民**による**民会**が開催された。民会は、古代ギリシアにおける最高議決機関であり、18 歳以上の成年男性市民全員で構成されていた。ちなみに、アテネにおいては、B.C.4 世紀以降では参加者に手当も支払われた。
- ③ 誤 **模範議会**が開催されたのは、**イギリス**。模範議会は、1295 年に**エドワード 1 世**が招集した**身分制議会**。大貴族・高位聖職者以外にも騎士や都市代表が参加した。
- ④ 誤 **ドゥーマ**が開設されたのは、**ロシア**。ドゥーマは、第 1 次ロシア革命後に開設された**ロシア**の国会。**1905 年**の**ニコライ 2 世**の**十月宣言**をうけて開設された。議員は制限選挙で選ばれ、権限にも制約があった。

問 3 12 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

世界史上の共和政や共和国に関する正誤問題。出題分野は、a ウィーン体制の成立、b 世界分割と列強対立。ここでは、フランスの共和政と、リベリア共和国が出題の対象になっている。a に関しては、フランス革命とその後の動向は複雑なので、復習して自分の知識が正確であることを確認しておきたい。b に関しては、一番簡単かつ覚えやすい方法は、アフリカ分割の地図を確認することであろう。時間的な余裕があれば、アフリカの白地図を印刷して、一からアフリカ分割の地図を作り上げてみてもよい。

- a 正 フランスで**共和政**が復活したのは、**ルイ=フィリップの亡命**後。**七月革命（1830 年）**後には**王政**（七月王政）が訪れ、そこで王を務めたのは、**ルイ=フィリップ**だった。しかし、有産階級を優遇した保守的姿勢から、共和派の改革要求に反対した。**二月革命（1848 年）**でイギリスに亡命し、その後フランス国内では臨時政府が成立し、**第二共和政**が始まった。
- b 正 列強によるアフリカの植民地化が進行する中、**リベリア共和国**は独立を**維持した**。植民地化から逃れられたのは、リベリアとエチオピアのみ。もともとリベリア共和国は、合衆国の解放奴隷を送り込むために建

てられた国。1822 年から送り込みが始まり、1847 年には独立を果たした。その後、アフリカのあらゆる地域が植民地化される中、独立を維持した。

B

問 4 13 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

古代ローマの政治体制に関する問題。出題分野は、ローマ世界。古代ローマは、世紀ごとに政治体制が変化していることが多いため、政治体制の流れを世紀とともに覚えておくといいたい。また、人物名も多く登場するため、彼らが活躍した時期も正確に把握しておく必要がある。古代ローマ史は、流れが複雑なため、センター試験に限らず頻出である。苦手な人は、早めに対策しておきたい。

- ① 正 王政期には、**エトルリア**人の王がいた。エトルリア人は、ギリシア人との交易などを通して繁栄し、ローマを支配していた。しかし、B.C.6 世紀にローマから追放され、さらに B.C.3 世紀にはローマに征服された。
- ② 誤 共和政初期には、**貴族（パトリキ）**が要職を独占していた。貴族（パトリキ）はローマで資産をもつ上位階層。反対に平民（プレブス）は、身分闘争を展開し、政治上の権利を獲得していったが、平民が要職を独占するまでには至らなかった。
- ③ 誤 帝政が始まったのは、**オクタウィアヌス**が**アウグストゥス**の称号を獲得したとき。ローマの帝政とは、B.C.27 年の元首政（プリンキパトゥス）の開始以降のことをいう。
- ④ 誤 帝国が東西に分裂したのは、**テオドシウス帝**の死後（395 年以降）。

問 5 14 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

中世ヨーロッパにおいて東方貿易に従事していた都市と、その位置に関する地図問題。出題分野は、西ヨーロッパ中世世界の変容。東方貿易に関する問題は過去にも多く出題されている。ヴェネツィアは、東方貿易には欠かせない都市であるため、必ず覚えておこう。また、ヴェネツィアの地図上での位置も、貿易の動線を考える際には必要になってくる知識である。必ず地図帳で確認しておきたい。

中世ヨーロッパにおいて**東方貿易**に従事し、**香辛料の取引**で栄えた都市は、**ヴェネツィア**。東方貿易は、地中海東岸に送られてきたアジアの物産品を、北イタリア諸都市がヨーロッパ各地に運んだ貿易。そして、ヴェネツィアの位置として正しいのは、**b**である。よって、正解は、**②ヴェネツィアー b**である。ちなみに、アムステルダムは、17 世紀前半に貿易・金融・文化の中心として繁栄した都市。

問 6 15 正解は②

難易度 ★★☆☆☆

解説

ロシアで生じた革命に関する問題。出題分野は、第一次世界大戦とロシア革命。誤っている選択肢を選ぶことに注意する。この問題では、誤っている選択肢が他国の出来事に関する記述であり、判別が容易なので、正解しておきたい。ロシアでの出来事に関する記述ではあるが、ロシア革命とは少し時期が異なる、という内容であれば、難易度は高くなるのが予想できる。ロシア革命の知識は、特に三月革命と十一月革命の2つが存在することも相まって、混同しやすくなっている。正確な知識が定着しているかの確認のためにも、復習しておこう。

- ① 正 「土地に関する布告」が採択されたのは、**ロシア革命**においてである。1917年の**十一月革命**において、ソヴィエトの大会で「平和に関する布告」と「土地に関する布告」が採択された。後者は、社会主義化政策の一つであり、内容には地主所有地の無償での即時没収、土地の私的所有の廃止を含んだ。
- ② 誤 **キール軍港での水兵反乱**がおこったのは、**ドイツ**。キール軍港の水兵反乱（1918年）は、**ドイツ革命の端緒**となった反乱。第一次世界大戦の敗戦目前に、ドイツ海軍は艦隊に出撃を命じたが、これに水兵が反乱を起こし、この反乱が全国に波及して、ドイツ帝国を崩壊に導いた。
- ③ 正 レーニンが「**四月テーゼ**」を発表したのは、**ロシア革命時**。「四月テーゼ」は、1917年4月にレーニンが発表したボリシェヴィキの革命戦略要綱である。臨時政府を否認し、全権力をソヴィエトに移行することを目指した。「四月テーゼ」以降のボリシェヴィキのスローガンは「**すべての権力をソヴィエトへ**」。
- ④ 正 **ケレンスキー**が**臨時政府の首相**となったのは、**ロシア革命時**の出来事。1917年7月に社会革命党のケレンスキーが臨時政府の首相に就任した。十一月革命後には、反革命軍を組織したが、失敗して、アメリカに亡命した。

C

問 7 16 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

メキシコ革命に関する穴埋め問題。出題分野は、世界分割と列強対立。この問題では、メキシコ革命に関わった人物名が①～④の4つの候補中、2つしかないため、比較的に正答を選びやすい。しかし、メキシコ革命については、詳細に取り扱われる機会が少ないため、知識の定着があいまいになりやすい。センター試験に向けては、まんべんなく学習する必要があることがこの問題からも理解できるだろう。メキシコ革命の動向については、「【整理】メキシコ革命（1910年-17年）」を参考にしてほしい。

ア **ディアス**が入る。メキシコ革命（1910-17年）以前に独裁体制を敷いていた大統領は、ディアス。ディアス政権が打倒された後は、マデロが大統領に就任した。ちなみに、フランコはスペインの軍人。モロッコでの反乱で指揮を執り、スペイン内戦の口火を切った人物。内戦勝利後、総統となり、独裁政治を展開した。

イ **サパタ**が入る。**農民運動**を率いてメキシコ革命に参加したのは、**サパタ**。急進的な土地改革を主張するサパ

タは、ディアス政権の打倒後、土地改革に否定的なマデロを対立した。ちなみに、ペロンは、アルゼンチンの大統領。反米的な民族主義を掲げて国家社会主義政策を実施した。

問 8 17 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

国民政府が統一した後の中国の政治に関する問題。出題分野は、①第二次世界大戦、②③④世界恐慌とファシズム諸国の侵略。中国革命期の動向は複雑なため、知識を混同しやすい。「【整理】 中国革命」を復習の際にうまく活用してほしい。①では、連合国どうしの会談に関する知識が問われている。主要な会談が複数あり、参加国が会談ごとに異なるため、整理しにくい、「【整理】 連合国の戦後処理構想」を参考にしてほしい。

- ① 誤 **カイロ会談**は、**アメリカ合衆国・イギリス・中国**の3国首脳で行われた。1943年に行われたカイロ会談は、米（ローズヴェルト）・英（チャーチル）・中（蔣介石）を集めた首脳会談。ここでは、対日戦の協力と戦後処理を議題とした。
- ② 正 **汪兆銘**を首班とする**親日政権**（対日協力政権）が建てられた。1938年に重慶の政府を脱出した**汪兆銘**は、1940年に日本の傀儡政権である南京政府の主席となった。
- ③ 誤 **中華ソヴィエト共和国臨時政府**は1931年、毛沢東の指導のもと**瑞金**で成立した。
- ④ 誤 **八・一宣言**を出したのは、**中国共産党**。八・一宣言（1935年）では、コミンテルン第7回大会で提起された**人民戦線**をうけて、**内戦の停止**と**抗日民族統一戦線**の組織を主張した。

【整理】 連合国の戦後処理構想

A) →大西洋上会談（1941 年）－米（ローズヴェルト）・英（チャーチル）→「**大西洋憲章**」

目的：ファシズムの攻勢への対処

内容：領土不拡大・**国際機構再建**・民族自決・軍備縮小など 8 か条

B) →カサブランカ会談（1943 年）－米（ローズヴェルト）・英（チャーチル）

内容：対イタリア作戦（シチリア島上陸），枢軸国に無条件降伏をさせる

C) →カイロ会談（1943 年）－米（ローズヴェルト）・英（チャーチル）・中（蔣介石）→**カイロ宣言**

目的：対日戦の基本方針の決定

内容：日本の無条件降伏，**朝鮮の独立**，満州・台湾の中国への返還など

D) →テヘラン会談（1943 年）－米（ローズヴェルト）・英（チャーチル）・ソ（スターリン）

目的：第二戦線問題についての協議

内容：対ドイツ作戦で第二戦線の形成（北フランス上陸の作戦）

E) →**ヤルタ会談**（1945 年）－米（ローズヴェルト）・英（チャーチル）・ソ（スターリン）→**ヤルタ協定**

目的：戦後処理についての協議

内容：ドイツの分割占領，国連の拒否権，**ソ連の対日参戦**，南樺太・千島のソ連帰属など

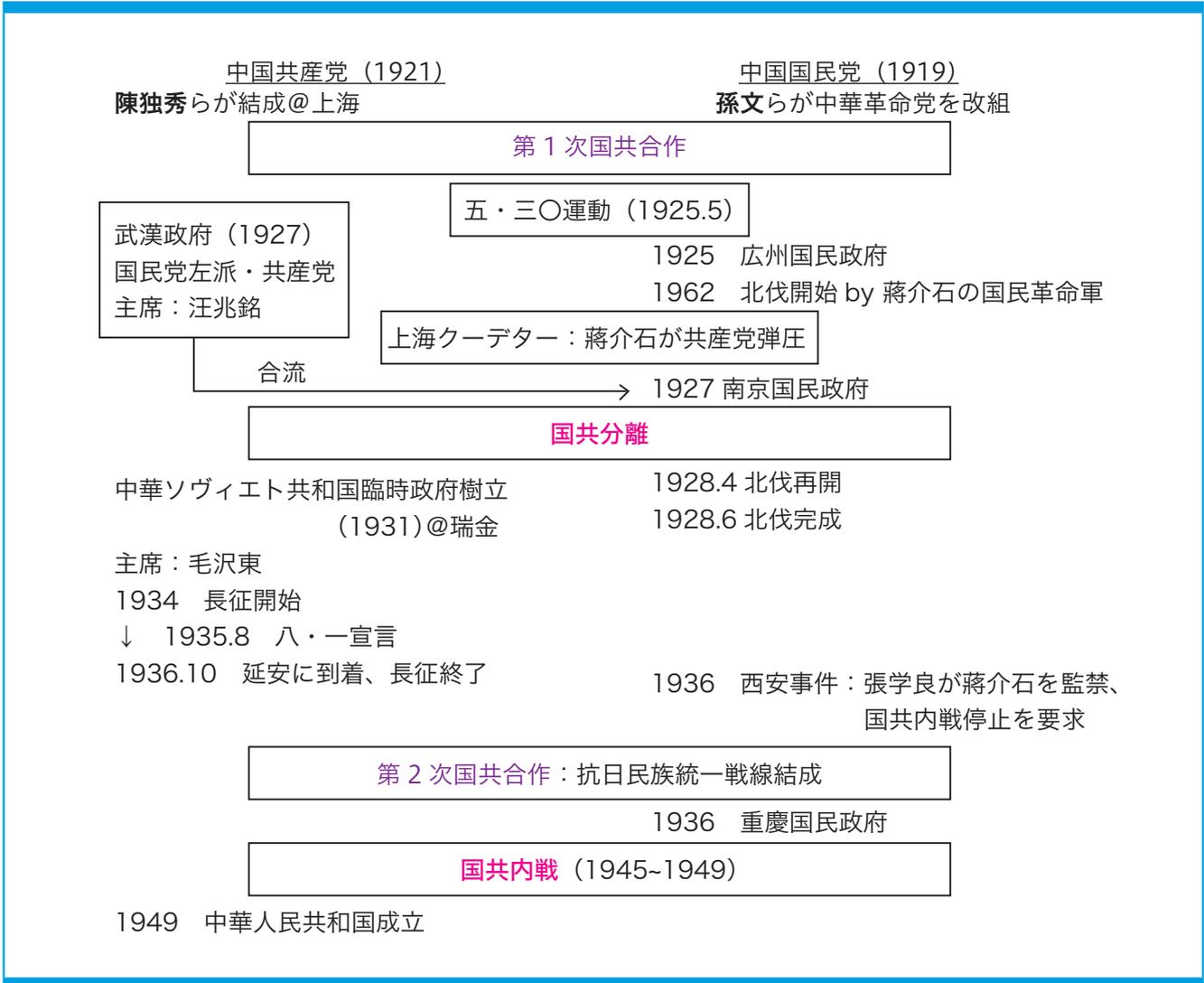
F) →**ポツダム会談**（1945 年）－米（トルーマン）・英（チャーチル→アトリー）・ソ（スターリン）→

ポツダム協定，**ポツダム宣言**

目的：対日処置についての降伏の条件，戦後の管理方針などの協議

内容：日本の**早期無条件降伏**，軍国主義の一掃，戦後ドイツの処理など

【整理】 中国革命



問 9 18 正解は④

難易度 ★★★★★☆

解説

民主化政策や民主化運動に関する問題。出題分野は、①社会主義世界の解体と変容、②、③第三世界の自立と危機、④第三世界の多元化と地域紛争。戦後の民主化政策や民主化運動に関する問題は、センター試験で頻出する。特に東欧や東南アジアなどの、復習が行き届きにくい地域に関する問題が頻出であるため、戦後に関する知識を侮ってはいけない。あわせて地図上で問われている地域の位置も確認しておこう。

- ① 誤 ルーマニアで、チャウシェスクの独裁体制が崩壊した。ルーマニアで独裁政治を展開していたチャウシェスクは、1989年に処刑された。
- ② 誤 韓国では、朴正熙によって民主化運動が抑制された。1963年に大統領となった朴正熙は、高い経済成長率を達成した大統領として名をあげるが、1973年に高揚した民主化運動を弾圧した。
- ③ 誤 九・三〇事件によって民主化運動が抑圧されたのは、インドネシア。1965年の九・三〇事件は、イン

ドネシアで起こった事件で、この事件を機に共産党勢力が壊滅し、スカルノにかわってスハルトが実権を握り、1968 年に大統領に就任した。

- ④ 正 台湾では、**李登輝**によって民主化が推進された。**李登輝**は、1988 年に総統に就任し、1992 年に初めての立法院委員（国会議員）選挙を行うなどして民主化を進めた。

（重森理瑛， 的場光紀）

2017 年度 センター試験 本試験 世界史 B

第 3 問 国家が諸地域を統合するために採用した制度

出題範囲	B.C.3 世紀～ 20 世紀の国家の政治・経済・軍事政策
難易度	★★★★☆☆
所要時間	15 分
傾向と対策	2017 年度の第 3 問では、歴史上のさまざまな国家の政策について問われた。形式としては正誤問題を中心に、地図を用いた問題が一題含まれた。B, C については比較的判断しやすい問題が多くみられたが、A において少しなじみの薄い用語や知識が問われた。問 1 のティムール制、問 2 の日本の治安維持法、問 3 の探検者などについてはよく知らなかった受験生も多かったかもしれない。正確な知識が欠けていても、消去法などで正解を導き出すことが求められた。

A

問 1 19 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

土地の管理や租税徴収に関する問題。出題分野は、①ローマ世界、②インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化、③北方民族の活動と中国の分裂、④トルコ・イラン世界の展開。正解が 1 つしかないため、消去法ではなく、②が正解だと気づけたら難しい問題ではない。しかし、消去法で解いて、正解を①か②で迷った人はいないだろうか。①に関しては、どう訂正するべきかもあわせて確認しておこう。

- ① 誤 コロナートゥスが広まったのは、**ローマ帝政後期**。コロナートゥスは、従来のラティフンディア（ラティフンディウム）に代わって出現した。コロナートゥスは、有力者が**解放奴隷**や没落した**自由農民**を**小作人（コロヌス）**として使用する農場経営のことを指し、3 世紀頃から増加したとされている。出現当初、コロヌスは人格的自由が認められていたが、次第に移動の自由が制限されるようになり、地主への隷属を強めた。
- ② 正 **イクター制**は、国家が軍人や官僚に分与地（イクター）の**徴税権**を与えるというもので、**ブワイフ朝**が創始した。イクター制の導入の背景には、カリフ権力が衰えたことにより、国庫収入が減少したことがある。そのため、**アター制**の維持が厳しくなり、イクター制が成立した。セルジューク朝のニザーム＝アルムルクにより、さらなる整備が進み、多くの王朝で採用された。ちなみに、ウマイヤ朝やアッバース朝初期で導入されていたアター制は、政府が農民・都市民から徴収した租税をもとに、軍人・官僚に現金俸給を支給する制度。
- ③ 誤 **均田制**は、**北魏**で創始された。均田制は、485 年に**孝文帝**が実施した土地制度。均田制（北魏）のねらいは、①豪族の大土地所有の抑制、②農民に対する支配の強化、税収の確保・増大、の 2 点。②のねらいは、年齢や性別などに応じた土地支給・回収をすることで果たそうとした。①、②と 2 つのねらいを掲げていたものの、**妻・奴婢・耕牛にも給田**されたために、豪族の有利性が依然目立ち、①のねらいは完全には果

たされないままだった。時代ごとの改良はなされているものの、北朝・隋（592年、楊堅が全国に施行）・唐（624年、隋の制度を継承して実施）にも受け継がれた。

- ④ 誤 ティマール制は、オスマン帝国で施行された。ティマールとは、オスマン帝国がトルコ人騎士（シパーヒー）に与えた（指定した土地からの）徴税権。プロノイア制（ビザンツ帝国）やイクター制と同様に、軍事奉仕への代償として徴税権を与えている。だが、特記すべき点は、スルタンと騎士の直接的な一対一の関係であり、封建的主従関係ではないことである。この制度は、騎士を維持する制度であったため、16世紀末頃から火器の使用が拡大すると、戦場での騎士の重要性が薄れ、制度自体が形骸化していった。

問2 20 正解は③

難易度 ★★☆☆☆

解説

思想・言論・宗教に対する国家の介入についての問題。出題分野は、①中国社会の変化、②北方民族の活動と中国の分裂、③アジア・アフリカ民族主義の進展、④ウィーン体制。①、②のように、文字の獄や、焚書・坑儒などといった中国の思想・言論統制は、頻出事項であるため、それが実施された時代も含めて覚えよう。③の治安維持法は頻出事項ではないが、近代日本において重要な役割をもっているため、確認しておこう。一見して③が正解だとは気づきにくいかもしれないが、①、②、④が比較的容易に誤りであると判断できるため、難しい問題ではない。

- ① 誤 朱全忠は、唐を滅ぼし、後梁を建国した節度使。黄巢の乱に参加した経験ももつ。ちなみに、清朝では、文字の獄で反清思想を弾圧した。文字の獄は、清朝以外の中国王朝でも実施された例はあるが、特に康熙帝から乾隆帝の時期に徹底的に実施された。漢人社会に強く根づいていた「華夷の別」の思想の弾圧を目的とし、反清・反満的な文を著した人は処罰（おもに極刑）された。
- ※「華夷の別」(華夷思想)：中央の中華(華夏・中夏)と、周辺四夷(東夷・西戎・南蛮・北狄)を区別し、中央の中華に文化的優位性があるとする思想。遼・西夏・金からの圧力を強くうけていたこともあり、特に宋代では、大義名分論とともに強調された。
- ② 誤 曹操は、三国時代の魏の創始者。曹操は、後漢末の群雄の一人で、華北の実権を握った。全国統一を目指したが、赤壁の戦い(208年)で劉備・孫権の連合軍に敗北した。216年に魏王となった。ちなみに、焚書・坑儒を行ったのは、秦。始皇帝は、法家・丞相李斯の建言にもとづいて、思想統制を目的として、秦国の記録・医薬・卜筮(占い)・農業書などの実用書以外の書籍をすべて焼いた(焚書)。翌年には、批判的な儒者らを約460人捕らえ、穴埋めにした(坑儒)。
- ③ 正 日本は、1925年に治安維持法を制定して国民の思想、社会運動を統制した。治安維持法の罰則は、当初は懲役・禁固が含まれていたが、やがて死刑も追加された(1928年)。第二次世界大戦後の1945年に撤廃された。ちなみに、治安維持法制定と同年に、(男性)普通選挙法も制定されている。
- ④ 誤 カトリック教徒解放法は、イギリスの法律。それまでカトリック教徒は公職に就けなかったが、カトリック教徒解放法の制定(1829年)により、カトリック教徒も公職への就任が可能になった。オコンネルは、ア

イルランド独立運動の指導者であり、カトリック教徒解放法の成立に大きく貢献した人物。この法律をもって、イギリスの政治面での宗教的差別は撤廃された。ちなみに、公職就任者を国教徒に限るとした法律は、**審査法**（1673年）。審査法は、チャールズ2世のカトリック政策に対抗して議会在が制定したもの。1828年に廃止されたが、カトリック教徒はなおも公職から排除されていた。

問3 21 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

「未知なる世界」への探検に関する穴埋め問題。出題分野は、19世紀欧米の文化。ア、イともに探検家についての事項になっている。17世紀頃の文化史からは、自然科学分野の事項が追加されていて、19世紀の文化史は、文学や哲学のみならず、美術・音楽、人文・社会科学系、自然科学系の知識も必要とされる。その上、探検者の人物名も覚えるとなると、負担が大きくなるが、問題集などを利用して、アウトプットと復習を繰り返し行えば、知識は身につく。

ア アフリカ探検を行ったのは**スタンリー**。スタンリーは、リヴィングストン（ヴィクトリア瀑布を発見した人物）搜索のために、アフリカ探検に加わった。1874年以降は、ベルギー国王の支援でコンゴ地方（内陸部）を探検し、植民地の獲得と経営に協力するなどして、帝国主義政策とかがかかわっていた。ちなみに、**タスマン**は、オランダ東インド会社から派遣され、**タスマニア**や**ニュージーランド**、フィジーなどに到達し、帰途にオーストラリア沿岸を探検した。

イ アムンゼンは**南極点**に初めて到達した。**南極点到達**は、アムンゼン（ノルウェー）とスコット（英）間の競争となったが、アムンゼンが勝利し、1911年に南極点の初到達に成功した。スコットは、アムンゼン到達のわずか35日後に到達を果たした。ちなみに、**北極点**に初めて到達したのは**ピアリ**。初めは、アムンゼンも北極点初到達を狙っていたが、ピアリに先を越され、急遽南極点を目指した。ピアリは、1909年に北極点の初到達を果たした。

これらの事項から、極地探検は、19世紀末から国家威信をかけて展開されていたことがわかる。

B

問4 22 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

文章中の穴埋めと地図上の位置を問う組み合わせ問題。出題分野は、東アジア文化圏の形成。隋代に実施した事業は多くはなく、この問題で問われている事項も主要なものであるため、アを正答するのは難しくはない。また、地図上の位置は、アの事業さえ判断できれば、aとbを見比べてみると、比較的容易にどちらが正解かが見分けがつくはずだ。教科書・参考書で確認しておこう。

隋の時代には**大運河の建設**が進められた。地図上の位置は、**b**になる。隋では、文帝と煬帝の2代にわたって

大運河建設を実施した。合計で5つの運河の建設に成功し、それらを通じて、政治の中心である大興城（長安）周辺と、経済の中心である余杭（杭州）を結んだ。元代には、フビライが、大都での人口増加に伴って江南から食料を運ぶために、隋代以来の大運河を補修し、大都と通州との間に通恵河^{つうけいが}を開削した。ちなみに、aは黄河を示す。

運河は、海と海を結ぶものや可航河川の分水域を横断して連絡するものなどさまざまな種類がある。しかし、運河を建設するおもな考え方は、「何か（おもに陸地）で分断されている海や河川があり、中間の陸地が邪魔だから、取り払ってしまおう」だ。そう考えれば、bは、地図上のa（黄河）や長江のように中国を横断している河川とは異質であることがわかる。さらに詳細に観察すれば、bは東シナ海・長江・淮河・黄河を結んでいることがうかがえる。それらのことをヒントにすれば、「可航河川の分水域を横断して連絡するもの」の条件を満たす「運河」である可能性が高いと判断できる。もちろん、このように考えるよりも、地図上で大運河の位置や形状を覚えておくほうが早いですが、言葉の定義などに回帰して、そこから判断できることもあることを忘れないでこよう。

問5 **23** 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

諸国家や諸勢力の間で起こった出来事に関する問題。出題分野は、①東アジア諸地域の自立化、②ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成、③第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り、④草原の遊牧民とオアシスの定住民。標準レベルの知識を問う問題。誤っている選択肢に関しては、どこをどう訂正すれば正解の選択肢になるかをメモしておき、答え合わせの際に確認しよう。知識のアウトプットのよい機会となる。

- ① 誤 **契丹（キタイ）**が**燕雲十六州**を巡って争ったのは、**宋**。燕雲十六州は、現在の北京（^{ゆうしゅう}幽州）・大同（雲州）など長城付近の地域を指す。この地域の領有をめぐる、936年に契丹（キタイ）と宋は争った。契丹（キタイ）は、後晋の建国を援助した代価として燕雲十六州の領有を主張し、獲得した。
- ② 誤 ネーデルラントの北部7州からなる**ユトレヒト同盟**は、**スペイン**からの独立を要求した。ユトレヒト同盟は、1579年に北部7州の結束強化を目的として結成され、信教の自由が獲得できるまで戦うことを誓い合った。
- ③ 正 **米州機構（OAS）**は、1948年に成立した、**南北アメリカ**21か国による**反共協力組織**である。米州機構（OAS）は、第9回パン＝アメリカ会議で成立し、カリブ海地域での社会主義運動や革命をおさえる役割を果たした。
- ④ 誤 **エフタル**は**ササン朝**を圧迫したが、6世紀半ばに**ササン朝**と**突厥**の挟撃により滅びている。エフタルは5～6世紀に中央アジアで活躍した騎馬遊牧民で、トルキスタン・西北インドにも侵入し、ササン朝と東西交易路をめぐる争った。**ムガル帝国**は1526年に建国され、1858年に、**シパーヒーの大反乱**をうけて滅亡した。

問 6 24 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

唐代中後期に起こった出来事についての問題。出題分野は、①北方民族の活動と中国の分裂、②東アジア文化圏の形成、③清代の中国と隣接諸地域、④東アジアの激動。本来であれば、それぞれの選択肢に関して、(1) 内容に誤りがあるか、(2) 唐代中後期に起こった出来事に関する記述であるか、の2点を確認すべき問題だが、ここでは(1)を気にする必要はなくなっている。残るは(2)の判断のみで、正解が一つに絞られる。誤っている選択肢に関しては、いつの時代の出来事に関する記述であるかを確認しておこう。

- ① 誤 五胡が華北で勢力を広げたのは、魏晉南北朝時代。北方民族は多く存在したが、五胡はそれらのうち、4～5世紀に華北に諸国を建てた非漢族（匈奴・鮮卑・羯・氐・羌）のことを指す。
- ② 正 傭兵を用いた募兵制が導入されたのは、唐代中後期。農民の間の貧富の差が開き、没落・逃亡するものが増える中で府兵制の実施が困難になった。均田制の崩壊に伴って、722年に玄宗は傭兵を募集した。749年の折衝府廃止と相まって、府兵制が廃止され、募兵制に切り替わった。募兵制への転換と近い時期に節度使も設けられ、辺境の募兵集団の指揮官としての役割を果たした。
- ③ 誤 康熙帝がジュンガルと戦ったのは、清代。ジュンガルは、オイラトの一部族とその国家のことを指し、17～18世紀中頃にかけてイリ地方からタリム盆地で強大な勢力だった。外モンゴルから青海・チベットにも勢力を拡大したが、親征した康熙帝に敗れ、1758年に乾隆帝によって滅亡された。
- ④ 誤 ロシアが沿海州を獲得したのは、清代。1860年に清とロシアの間で結ばれた北京条約において、ロシアが沿海州を獲得することが決定した。

C

問 7 25 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

世界史上の貨幣や貨幣制度に関する問題。出題分野は、①中国の古典文明、②モンゴルの大帝国、③ヴェルサイユ体制下の欧米諸国、④世界恐慌とファシズム諸国の侵略。①、②は、中国で使用された貨幣の知識を問うている。中国は古代から中世まで頻繁に使用貨幣が変化しているため、注意が必要だ。復習の際には、「【整理】中国の貨幣と使用地域」を活用してほしい。③、④は、戦間期の貨幣の変化に関する問題だ。それぞれの変化がいつの時代に起こったのかを把握しておきたい。③、④の項目に関しては誰の時代の出来事であるかまで詳しく覚えておこう。

- ① 誤 五銖銭が発行され始めたのは、前漢の武帝の時代。当初、漢は民間による貨幣鑄造を認可していたが、混乱が生じたために、B.C.119年に五銖銭を鑄造し、それだけを正式な通貨とした。それ以後、唐で開元通宝が鑄造されるまでは、五銖銭が使用された。

- ② 誤 **交鈔**は**元**で用いられた紙幣。**交鈔**は、金にならった紙幣で、**元**では基本通貨である銀の「補助通貨」として使用されたため、銀との兌換が保証されていた。使用は、納税・俸給・軍事調達などに限定されていたと言われている。交鈔の普及・流通により、用いられなくなった銅銭（宋銭）が日本などに大量に流出した。
 ※銅銭（宋銭）：銅銭は、清末まで中国で使用されていた。貨幣経済が発展した北宋時代には、大量の銅銭が発行され、広く流通した。また、宋銭は精度・品位共に高かったため、東アジア全域に輸出され、国をまたいで広く使用された。
- ③ 誤 **Rentenマルク**を発行したのは、**ドイツ**首相の**シュトレーゼマン**。 **Rentenマルク**は、1923年に**ドイツ**内の**インフレ**收拾のために発行され、1兆マルクを1 Rentenマルクと交換した（ただし、担保あり）。 Rentenマルクの発行に加えて、緊縮財政政策も実施したため、翌年には破壊的インフレが收拾できた。
 なお、**ストルイピン**は**ロシア**の政治家。ウィッテ解任後には、首相となり、様々な変革をもたらした。議会を解散し、革命派を弾圧していく一方で、**ミール**を解体して個人土地所有の導入を目指した。
 ※ドイツ内のインフレ：この時期のドイツ内でのインフレと、ドイツに課された第一次世界大戦の賠償金が大きく関係している。ロンドン会議（1921年）にて、ドイツの賠償総額は1320億金マルクに決定した。これは、当時のドイツ歳入のおよそ25倍であり、容易にドイツが返済できる金額では到底なかった。そのため、ドイツは支払い延期を要求し続けた。しかし、賠償金の半分以上を受け取る側にいたフランスは、ドイツの態度にしびれを切らし、ベルギーとともに、1923年にルール（ドイツ最大の工業地帯）を占領した。ドイツは、このフランスの動きに対抗しようと、サボタージュと不服従を買った。しかし、このドイツの態度が裏目にて、ドイツ経済への打撃も増大し、インフレが一気に加速した。
 ※ミール：ロシアの地縁的共同体。各農家の戸主の集合体で、租税や賦役の連帯責任を負いつつ、農民の自治・連帯の基盤となっていた。
- ④ 正 **イギリス**の**マクドナルド**挙国一致内閣は、1931年に**金本位制**を停止した。イギリスでは、第一次大戦後しばらく停止していた金本位制を1925年に復帰させたが、ポンドの過大評価、**世界恐慌**の影響で維持が困難になり、再び金本位制を停止した。

【整理】中国の貨幣と使用地域

春秋戦国時代	: 青銅貨幣; 刀銭 (齊・燕・趙), 環銭 (周・秦・魏・趙) 布銭 (韓・魏・趙), 蟻鼻銭 (楚)
秦	: 銅銭; 半両銭 (秦の 始皇帝 により 統一)
前漢	: 銅銭; 五銖銭 (武帝 により製造) → 隋 で貨幣を再統一
唐	: 銅銭; 開元通宝 送金手形制度 (元祖紙幣); 飛銭
北宋	: 銅銭; 宋銭 世界初! 紙幣; 交子 (金融業者が発行) /南宋: 紙幣; 会子 (政府が発行)
元	: 紙幣; 交鈔
明	: 紙幣; 宝鈔
中国国民党	: 銀行券; 法幣 (1935 年の幣制改革で貨幣の統一を目指した)

問 8 26 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

世界史上の傭兵や兵士に関する問題。出題分野は、①ギリシア世界、②ローマ世界、③ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成、④南アジア・東南アジアの植民地化。①に関しては、まずギリシア世界とローマ世界を混同しないように注意しよう。その上で、「マラトンの戦い」は、どのような戦いだったか（対立国はどこで、どの軍が参戦していたか、など）を確認しておこう。ペルシア戦争のときの戦いとその結果は、「【整理】ペルシア戦争（アテネ VS. アケメネス朝）」を参考にして、知識を確認してほしい。③で問われているのは、三十年戦争の知識だ。三十年戦争でカギとなってくる人物名は複数あるため、それぞれが旧教・新教のどちら側として戦っていたか、を正確に把握しておきたい。

- ① 誤 **マラトンの戦い** (B.C.490) では、**アテネ**の重装歩兵部隊が**ペルシア軍**に勝利した。アテネ軍と比較して、圧倒的多数だったペルシア軍だったが、アテネ軍には勝利できなかった。ちなみに、マラトンの戦いの際には、スパルタは宗教祭礼のため参戦していなかった。
- ② 誤 **オドアケル**は、**476年**に**西ローマ帝国**を滅亡させたゲルマン人傭兵隊長。帝位はビザンツ皇帝に返上し、反対に皇帝からは総督の称号をうけた。ラヴェンナにおいて、**東ゴート王国**建国者・**テオドリック大王**により殺害された。
- ③ 誤 **ヴァレンシュタイン**は、**三十年戦争**で**皇帝軍** (**旧教徒**) 側について戦った。ヴァレンシュタインは、皇帝と契約した傭兵隊長で、デンマークやスウェーデンの新教国側と戦い、勝利を収めているが、新教徒との和平工作で皇帝の怒りを買って、暗殺された。

なお、スウェーデンは**新教徒**側で、スウェーデン軍を率いたのは**グスタフ＝アドルフ**国王。スウェーデンは、当時バルト海に勢力を張っていたため、神聖ローマ帝国のドイツ北進を恐れ、**新教徒側**について三十年戦争に介入した。

- ④ 正 インドでは、イギリス支配への不安とあいまって、**シパーヒーの反乱**（1857年）が発生した。シパーヒー（イギリス東インド会社のインド人傭兵）は、薬包の油脂を問題視し蜂起した。5月にはデリーを占拠し、有名無実化したムガル皇帝の復権を宣言した。この反乱は、シパーヒーから始まったが、次第にイギリス支配に不満を持つ旧支配層や農民、都市の民衆が加わり、北インド全域に広まった。イギリスは、**1858年**にこれを鎮圧して**ムガル帝国を滅ぼし**、インドを**直接統治下**に置いた。

※薬包の油脂のどこが問題？

薬包とは、発射用火薬を適量に分けて包んだものだが、当時は火薬とともに弾丸も薬包に含まれていた。当時は、その薬包を噛み切り、ライフルの銃口に火薬を流し込み、その上に紙ケースをつけたまま弾丸を挿入するシステムになっていた。この噛み切る必要があった薬包に、豚と牛の油脂が使われたという噂が流れ、問題視された。なぜなら、豚はムスリムにとって、牛はヒンドゥー教徒にとって、口に含むことがタブーとされているからだ。

【整理】ペルシア戦争（アテネ VS. アケメネス朝）

契機：ダレイオス1世に対する**イオニア植民市の反乱**をアテネが援助した

<第1回>

B.C.492年 **ダレイオス1世**が開始

<第2回>

B.C.490年 マラトンの戦い：ギリシア（アテネ軍）勝利

<第3回>

B.C.480年 テルモピレーの戦い：ギリシア（スパルタ軍）敗北→ペルシアがアテネに侵入

サラミスの海戦：**テμισトクレス**率いるギリシア（アテネ軍）の勝利（無産市民が漕ぎ手として活躍）

B.C.479年 プラタイアの戦い：ギリシア完勝＝ペルシア戦争におけるギリシア勝利が確定

【B.C.478年 **デロス同盟**結成：ペルシアの再攻に備えた**アテネ**中心の軍事同盟】

問9 27 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

国の統治制度や軍事制度に関する正誤問題。出題分野は、a 東ヨーロッパ世界の成立、b 中国の古典文明。a で

は、プロノイア制が実施された国の正誤が注目対象となっているが、同時にプロノイア制の内容も確認しておこう。bのような、郡国制・郡県制に関する問題は頻出であるため、苦手意識がある場合は問題演習を重ねて知識を定着させていきたい。郡国制と郡県制は、内容面でも時代としても混同しやすくなっているため、念のため復習しておこう。

- a **誤** プロノイア制を用いたのは、**ビザンツ帝国**。プロノイア制は、11世紀末以降に実施された**ビザンツ帝国**の**土地制度**。有力な貴族層に対して、軍事奉仕を求める代わりに、皇帝から本人一代に限り国有地の管理権（平たく言うと「土地」）もしくは国税収入（徴税権）のいずれかを給付することを規定した。この制度では、「本人一代に限り」としたが、次第に土地の世襲化が認可されるようになり、帝国の分権化が進行した。
- b **正** 漢の高祖は、**郡県制**（直轄地にて）と**封建制**（地方にて）をあわせた郡国制を敷いた。郡県制は、始皇帝が李斯の進言を受け入れて施行した制度で、全国を郡に分け、その郡の下に置いた県に中央から役人を派遣して治めさせた。封建制は、世襲の諸侯に土地を与え、その土地と引き換えに、軍役や貢納の義務を課す制度。**秦**の中央集権的な**郡県制**が諸侯の不満を買い、秦滅亡に至ったという反省から**郡国制**を導入したが、歴代皇帝は徐々に諸侯の領土を奪った。武帝のときには事実上、郡県制に移行していて、集権化が完成していた。

（重森理瑛，谷口昂輝）

2017 年度 センター試験 本試験 世界史 B

第 4 問 世界史上の自然環境・資源と人間との関わり

出題範囲	古代～現代の文化史・政治史
難易度	★★★☆☆
所要時間	15 分
傾向と対策	2017 年度の第 4 問は 4 択式による解答で、正誤問題を中心として、穴埋め問題や、年代並び替え問題、地図を利用した問題が出題された。政治史を主な題材としているが、問 4 や問 9 のように文化史も問われている。問 7 の年代並び替え問題は、大きく時代がずれているため、同じ出題形式の問題の中でも比較的やさしい。

A

問 1 28 正解は④

難易度 ★★★☆☆

解説

インカ帝国の位置と、征服者の名の組み合わせ問題。出題分野は、南北アメリカ文明。南北アメリカ文明、特にそれらの文明の征服者に関する問題はセンター試験では頻出。それぞれの文明が栄えた地域を地図上で解答させることも多いため、教科書や参考書をよく確認しておこう。また、征服者の名前と征服した文明を誤って覚えないように注意する必要もある。「【整理】古アメリカ文明」を復習の際に活用してほしい。

インカ帝国は、現在のエクアドルからチリにかけてのアンデス高地に建設された帝国であるため、地図上の位置は b とわかる。また、インカ帝国を征服したのはピサロである（1533 年）。よって、正解は④ピサロー b。ちなみに、a はアステカ王国を指している可能性が高い。アステカ王国は 1521 年にコルテスによって滅ぼされた。

【整理】古アメリカ文明

▷ マヤ文明（4-16 世紀）

中心地：ユカタン半島（中央アメリカ）

文字：マヤ文字

特色：ピラミッド・神殿と暦法が発達、二十進法

衰退：16 世紀にスペイン人によって滅亡

▷ アステカ文明（14 世紀 -1521 年）

中心地：メキシコ～パナマ、首都はテノチティラン

文字：アステカ文字

特色：神権政治を展開

衰退：1521 年に**コルテス**によって滅亡

▷**インカ文明**（1200 年頃 -1533 年）

中心地：アンデス高地（南アメリカ）、首都は**クスコ**

文字：**キープ**（結縄）

特色：神権政治（太陽崇拝）を展開，石造建築の技術が発達

問 2 **29** 正解は④

難易度 ★★☆☆☆

解説

アメリカ大陸の銀とその流通に関する穴埋め問題。出題分野は，ヨーロッパ世界の拡大。近世ヨーロッパ世界が形成されていく初期段階（大航海時代や，商業革命・価格革命の時期）は，センター試験および二次試験において頻出なので，必ず復習しておこう。この時期は「世界の一体化」が進行しているため，地域横断的な視野も忘れないようにしたい。

ア ポトシが入る。**アメリカ大陸**で有名な銀山はポトシ銀山。ポトシ銀山は，一時は世界最大の銀産出量を誇った。そこで採掘された銀は，太平洋を渡って**フィリピン・マニラ**に，さらにはスペインに運ばれた。ポトシ銀山で採掘された銀は，ヨーロッパに大量に輸送され，価格革命をおこす一因となった。一方，ポトシ銀山では先住民が過酷な労働を強制された。なお，**クスコ**は**インカ帝国の首都**。

イ マニラが入る。**スペインの拠点**であり，**アカプルコ貿易**が行われていたのはマニラ。マニラは，1571 年にスペインが占領した。なお，**フエ**はベトナム中部の都市で，**阮朝時代の都**。

※アカプルコ貿易（ガレオン貿易）：スペイン商人がアカプルコ（メキシコ）とマニラを結んで行った貿易。アカプルコからマニラにメキシコ銀を運搬し，中国商人がマニラに運んだ絹・陶磁器などと交換した。そこで獲得した中国商品は，メキシコを経由してスペインに運搬された。

問 3 **30** 正解は③

難易度 ★★★☆☆

解説

世界史上の海戦に関する問題。出題分野は，①ローマ世界，②フランス革命とナポレオン，③トルコ・イラン世界の展開，④第二次世界大戦。形式に差はあるが，②，③，④で問われている「トラファルガーの海戦」「プレヴェザの海戦」「ミッドウェー海戦」は，2007 年世界史 A の第 2 問 問 7 でも問われている。このように，センター試験では「海戦」を 1 つのまとまりとして出題する傾向にある。もちろん，それぞれの「海戦」の時期や地域などは異なるが，それぞれの「海戦」の内容・参戦国・結果を正確に把握しておきたい。

- ① 誤 **アクティウムの海戦**で、アントニウスが**敗北**した。アクティウムの海戦（B.C.31 年）は、オクタウィアヌスとアントニウス・クレオパトラ連合軍の戦いである。海戦の結果、地中海の周辺地域は**ローマのもとに統一**され、**ローマの内乱状態は終結**した。
- ② 誤 **トラファルガーの海戦**では、イギリス艦隊が**勝利**した。トラファルガーの海戦は、ジブラルタル海峡北西の沖合でのフランス・スペイン艦隊とイギリス艦隊との戦いであり、**1805 年にネルソン**の指揮するイギリス軍がフランスに**勝利**した。これをうけて、ナポレオンはイギリス本土侵攻を断念し、大陸制覇に精を出した。
- ③ 正 **プレヴェザの海戦**で、オスマン帝国が**勝利**した。プレヴェザの海戦（1538 年）は、オスマン艦隊とスペイン・ヴェネツィア・ローマ教皇の連合艦隊の戦いで、オスマン艦隊が**勝利**した。この戦いに勝利したことで、オスマン帝国は、クレタ・マルタを除く**全地中海域での制海権の掌握**に成功した。
- ④ 誤 **ミッドウェー海戦**で、アメリカ艦隊は**勝利**した。ミッドウェー海戦（1942 年）は、アメリカ海軍と日本海軍の戦いで、アメリカ軍が**勝利**し、日本軍に壊滅的な打撃をあたえた。この敗北をきっかけとして、日本が太平洋での主導権を失い、それ以後は敗北を重ねた（ドイツの 1942 年のスターリングラードの戦いと同一状態）。

B

問 4 31 正解は②

難易度 ★★★★★☆

解説

自然哲学や薬学についての正誤問題。出題分野は、a ギリシア世界、b 東アジア世界の動向。ab ともに文化史の知識が要されるため、やや難易度は高い。a はギリシアの文化に関する内容で、ギリシア自然哲学者の知識が必要だ。著名なギリシア自然哲学者を復習し、彼らが万物の根源を何とらえていたかを確認しておこう。b は明代の実学書に関する知識を問うている。四文字の著作が並ぶため、覚えるのは難しいかもしれないが、できるだけ内容と照らし合わせて知識に定着させていこう。a に関しては「**【整理】ギリシア自然哲学者**」を、b に関しては「**【整理】明代の実学書**」を復習の際に活用してほしい。

- a 正 タレスは、^{アルケー}万物の根源を**水**だと考えた。ギリシア初の自然哲学者であるタレスは、イオニア学派の祖であり「哲学の父」と称された。
- b 誤 宋応星は『**天工開物**』を著した。『天工開物』は、明代の産業技術書で、1637 年に刊行された。中国の伝統的な生産技術が記されており、豊富な図版を使用して生産工程を解説している。ちなみに『本草綱目』を著したのは李時珍。

【整理】ギリシア自然哲学者

- タレス** : 万物の根源は「水」
「哲学の父」とも称され、B.C.585 年の日食を予言したとされている。
- ピタゴラス** : 万物の根源は「数」
「ピタゴラスの定理」など多くの定理を発見、宗教的秘結社の一員。
- ヘラクレイトス** : 万物の根源は「変化自体」象徴が「火」
「万物は流転する」(世界の本質は常に変化する流動だ)。
- デモクリトス** : 万物の根源は「原子」 = 変化も消滅もしない
唯物論哲学・機械論の祖とされる。

【整理】明代の実学書

- ▷ 『農政全書』(by 徐光啓) : 農政・農業関係の総合書
- ▷ 『本草綱目』(by 李時珍) : 薬物に関する総合書
- ▷ 『天工開物』(by 宋応星) : 産業技術に関する解説書
- ▷ 『崇禎曆書』(by 徐光啓ら) : イエズス会宣教師の協力を得て、西洋暦法によって編纂した暦法書

問 5 32 正解は①

難易度 ★★☆☆☆

解説

2 世紀に成立し、インド文化の影響を受けた国家の名と位置を問う地図問題。出題分野は、東南アジアの諸文明。この問題で選択肢として挙げられている「チャンパー」と「マタラム王国」は位置を把握していれば、どちらがインド文化の影響を受けていたかは想像がつかはずだ。さらに、両者のうち、どちらの成立時期が早いかを判断できれば、その予想を確実なものにできる。東南アジア史は、知識が少なくない割にあまりメインとして取り上げられないため、知識が薄くなってしまいがちだが、自学で知識不足を確実に補っていきたい。また、この問題で問われているように、それぞれの国家が成立した地域の把握も、地図の載っている教科書や参考書を利用して、忘れないようにしておこう。

2 世紀に成立し、インド文化の影響を受けたのは、チャンパー。チャンパーは、2 世紀末にベトナム中部にチャム人が建てた王国で、4 世紀末からインドの影響を受け始めた。また、インドと中国南部との中継貿易で栄えた。地図上での位置は a が対応する。よって、正解は①チャンパーー a である。チャンパーは長期間存在していたこ

ともあり、複数の国と抗争を繰り返した。10 世紀までは中国と抗争し、10 世紀以降はカンボジアやベトナムと（海上交易の利益をめぐる）抗争した。17 世紀には阮朝の属国となった。なお、**マタラム王国**は、16 世紀末に**ジャワ島中・東部**を支配した王国で、17 世紀前半に全盛期を迎えた。内紛とオランダ東インド会社による内政干渉で、1755 年に分裂し「マタラム」の名称は消滅した。

問 6 **33** 正解は②

難易度 ★★★☆☆

解説

世界史上の船に関する出来事に関する問題。出題分野は、①第一次世界大戦とロシア革命、②ギリシア世界、③産業革命、④東アジアの動向。①で問われている「無制限潜水艦作戦」の知識はセンター試験ではよく扱われる。どの国によって実施され、どのような結果がもたらされたかを確認しておこう。③で問われている産業革命の時期の知識は、混同しやすいため、自身で知識を整理して流れを把握することが重要となる。④に登場する「亀甲船」は知識が薄くなりがちだが、センター試験ではやや頻出であるため、復習して知識定着を図ろう。

- ① 誤 **無制限潜水艦作戦**を実行したのは、**ドイツ**。ティルピッツ提督率いる**ドイツ**海軍は、1915 年に開始した無制限潜水艦作戦（「指定水路以外を通過する船は無警告で撃つ」という内容）を、一時中断ののち 1917 年に再開した。軍事的に劣勢になったドイツの対イギリス逆封鎖戦術であったが、この作戦を理由に同年に**アメリカ合衆国**が参戦し、戦況は連合側側に有利に展開された。しかし、アメリカ参戦の理由としては、ドイツの無制限潜水艦作戦はただの口実にすぎず、本当の理由はイギリス・フランスの敗北による対米負債の支払いの困難化を防ぐためだったとされている。
- ② 正 **三段櫂船**を用いて戦ったのは、**アテネ**。三段櫂船は、**アテネ**で使用された、上中下 3 段にならんだ漕ぎ手が櫂を使って動かす軍船。サラミスの海戦の時に、漕ぎ手の多くは**無産市民**であったが、戦後彼らの地位が上昇した。
- ③ 誤 **蒸気船**を実用化したのは、**フルトン**。フルトンは、1807 年に蒸気船（外輪式蒸気船クラーモント号）を発明し、ハドソン川を航行した。なお、**ハーグリーブズ**は、1764 年に**ジェニー紡績機**を発明した。この紡績機の発明は、糸の大量生産と紡績作業の効率化を可能にしたが、失業を恐れる職人の激しい反発を受けた。
- ④ 誤 **亀甲船**を用いたのは、**朝鮮**。亀甲船は、**李舜臣**が利用した軍艦で、倭寇への対策から開発されたとされている。厚い木材の屋根で甲板は覆われていた。

C

問 7 **34** 正解は①

難易度 ★★★☆☆

解説

河川や水路の整備・開発に関する年代並び替え問題。出題分野は、a ヨーロッパの再編と新統一国家の誕生、b 世界恐慌とファシズム諸国の侵略、c 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り。a、b、c それぞれの内容は世界史に

において重大な意味をもつため、それぞれの出来事が起こった時期を正確に把握しておきたい。その際に、世界恐慌や第二次世界大戦など、世界史上の重大な出来事との前後関係を同時に考えると、覚えやすくなる。

- a スエズ運河が開通したのは、**19 世紀後半** (1869 年)。スエズ運河は、**レセップス**が建設した地中海と紅海をつなぐ運河で、1859 年に着工し、10 年後に完成した。この運河の開通で、ヨーロッパとアジアの距離が一気に短縮した (ロンドンからアジアへの距離をケープ経由の約 3 分の 2 に短縮)。ちなみに、同年には、アメリカにおける大陸横断鉄道が開通されているため、この 1 年で世界の交通網は大きな変化を遂げた。
- b アメリカ合衆国で、**テネシー川流域開発公社 (TVA)** が設立されたのは、**20 世紀前半** (1933 年)。TVA は、世界恐慌克服のための**ニューディール政策**の一環で設立された総合開発事業。ダム建設や発電、植林などを進めることで、雇用促進をはかった。同時に、民間企業の電力独占の規制をはかった事業となった。
- c **アスワン=ハイダムの建設**が目指されたのは、**20 世紀後半** (完成は 1970 年)。エジプトの近代化をはかるために、建設されたダムがアスワン=ハイダム。しかし、当初援助を予定していたイギリス・アメリカは、ナセルがソ連への接近をはかると援助計画を撤回した。このため、建設費用を得るために、ナセルは**スエズ運河の国有化**を宣言し、これをきっかけに**第 2 次中東戦争**が勃発した。
- よって、**a → b → c** が正しいため、正解は①。

問 8 35 正解は②

難易度 ★★★★★

解説

木材や鉄に関わる歴史に関する問題。出題分野は、①古代オリエント世界、②インド・東南アジア・アフリカのイスラーム化、③西ヨーロッパ中世世界の変容、④産業革命。古代から近代まで幅広く出題するような問題は、センター試験においては頻出だ。この問題でも、古代 (①) から近代・産業革命 (④) まで幅広い知識が要求されている。また、②ではアフリカ史の知識が問われ、自身の解答に自信がもてないことも多いのではないかな。どの分野においても対策を怠らず、苦手分野を早期発見し、徹底的に知識の穴を埋めることがセンター試験および二次試験の対策になってくるだろう。

- ① 誤 **鉄製武器**を初めて本格的に使用したのは、インド=ヨーロッパ語系の**ヒッタイト人**。ヒッタイト人は、バビロン第 1 王朝を滅ぼし、はじめて鉄器を使用し、馬と戦車を駆使した。しかし、B.C.12 世紀に「海の民」や外敵の侵入によって滅亡としたとされる。
- ② 正 製鉄で繁栄した**クシュ王国**は、**メロエ**を都とした。クシュ王国は、エジプト新王国の滅亡後に建てられた王国だが、B.C.8 世紀にエジプトに進出してテーベを都にしたエジプト第 25 王朝を建国した。しかし、アッシリアの攻撃で退却し、B.C.670 年頃に**メロエ**に遷都した。
- ③ 誤 **フィレンツェ**は、ハンザ同盟都市**ではない**。**ハンザ同盟**は、リューベックを盟主とした北ドイツ諸都市の連合体。北海・バルト海交易で海産物・木材・穀物・毛皮などを取引した。なお、フィレンツェは、地中海商業圏に含まれているが、ロンバルディア同盟には含まれていない。
- ④ 誤 **コークス**を用いた製鉄法を発明したのは、**ダービー父子**。1709 年に父が製鉄燃料を木炭からコークス

に変わることを可能にし、1735 年に子が技術を発展させた。このことで、**鉄の大量生産**が可能になった。

問 9 36 正解は①

難易度 ★★★★★

解説

植物学などの自然科学に関する穴埋め問題。出題分野は、ア 17～18 世紀ヨーロッパの文化と社会、イ 19 世紀欧米の文化。両方の空欄において必要とされているのは、近代文化史の知識。イに関してはやや頻出な知識であるのに対し、アはあまり深く取り上げられない人物・分野となっている。文化史の学習では、近代に近づくほど項目や人物名が増え、復習が追いつかないかもしれない。しかし、センター試験では近代文化史についての問題は頻出なので、まんべんなく復習をし、定着していない知識を重点的に学習しよう。

ア **リンネ**が入る。18 世紀に**植物分類学を確立**したのは、リンネ。彼は**動植物の分類**について研究し、特に**植物分類法**の体系化に大きく貢献した。近代博物学の祖ともされている。

イ **ゲーテ**が入る。19 世紀前半に『**ファウスト**』を著したのは、ゲーテ。彼はドイツの詩人・作家であり、シラーとともにドイツ**古典主義**文学を大成し、ドイツでの「**疾風怒濤**」(シュトゥルム＝ウント＝ドランク)運動の先頭に立った。

(重森理瑛, 的場光紀)